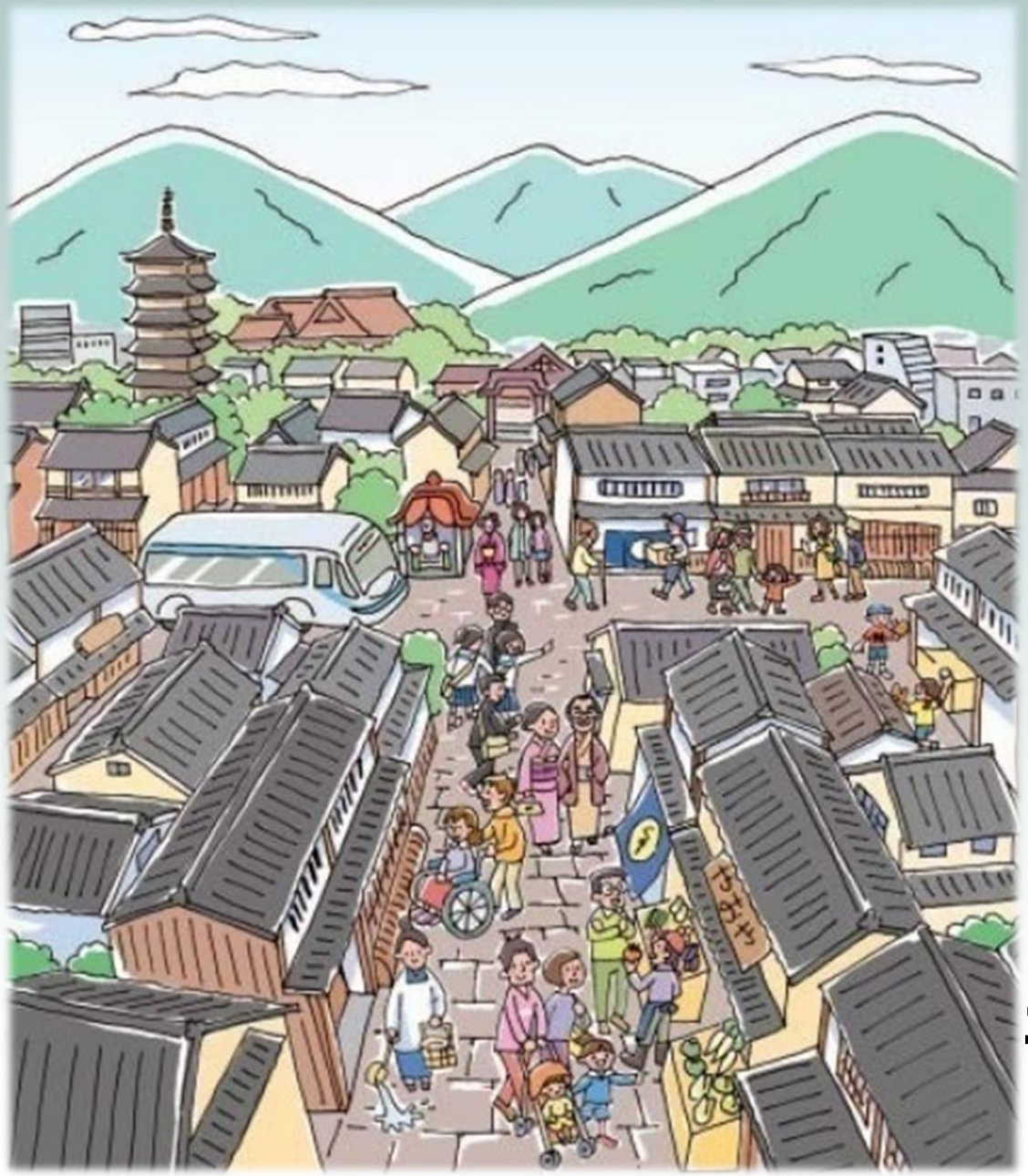
平成30年度「歩くまち・京都」推進本部会議 説明資料

資料４



平成30年7月25日

「歩くまち・京都」総合交通戦略の実施プロジェクトの推進

基本理念

自動車交通の制限を含めた様々な抑制策等を通じてクルマを重視したまちと暮らしを，「歩く」ことを中心としたまちと暮らしに転換していく。

京都議定書誕生の地であり，環境モデル都市でもある京都が日本を代表する「国際文化観光都市」であると同時に，まちの賑わいを生み出す都市であり続けることを目指す。

脱「クルマ中心」社会を実現するためには，戦略の理念を共有し，行政，事業者，市民の皆様が一体となって，94の実施プロジェクトの着実な推進を図る。

（１）「歩くまち・京都」総合交通戦略の進捗状況について

94の実施プロジェクトの進捗状況

分野	施策分類	進捗状況			
		企画構想段階	事業推進中	事業がほぼ達成	合計
分野1「既存公共交通」の取組	（１）公共交通利便性向上施策	1	45	9	55
分野2「まちづくり」の取組	（２）「歩くまち・京都」を支える歩行空間の充実	0	3	0	3
	（３）未来の公共交通の充実	0	2	1	3
	（４）自動車交通の効率化と適正化	0	8	0	8
	（５）パーソナルモビリティの転換	0	3	0	3
分野3「ライフスタイル」の取組	（６）「歩くまち・京都」憲章の普及・啓発	0	1	0	1
	（７）交通行動スタイルの見直しを促すコミュニケーション施策（モビリティ・マネジメント施策）	0	20	1	21
合計		1（1%）	82（87%）	11（12%）	94（100%）

詳しくは資料5をご覧ください

平成29年度の主な取組

＜「まちづくり」の取組＞

・自動運転技術の社会実装に向けて，検討会議を開催し，市民向けシンポジウム及び自動運転可能な電動小型低速車の体験乗車イベントを開催
・安心・安全な東大路歩行空間創出事業では，歩道の横断勾配の改善や電柱等の移設と集約に係る工事に着手

＜「既存公共交通」の取組＞

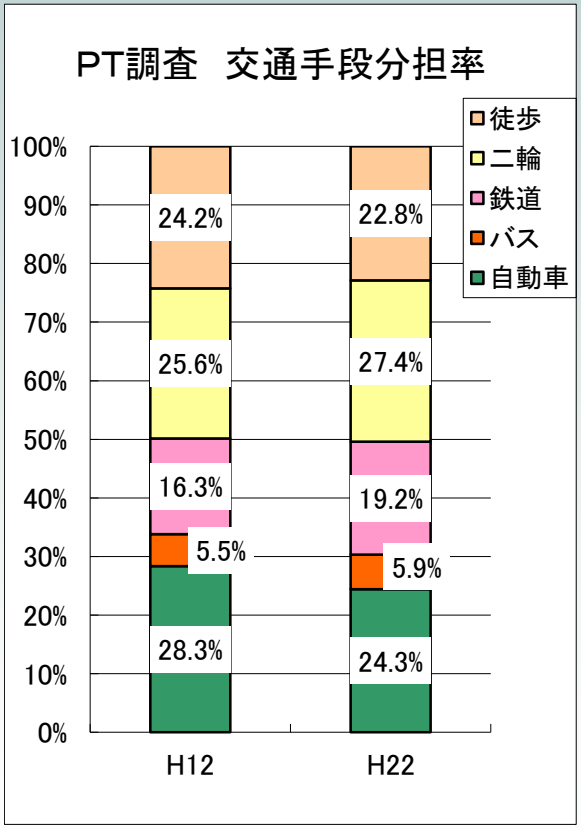
・バス路線充実等の社会実験に対する支援として，京阪バス「鏡山循環」及び「くるり山科」の増便に係る社会実験を支援
・阪急西院駅の既存の西改札口のバリアフリー化等，交通バリアフリーの推進

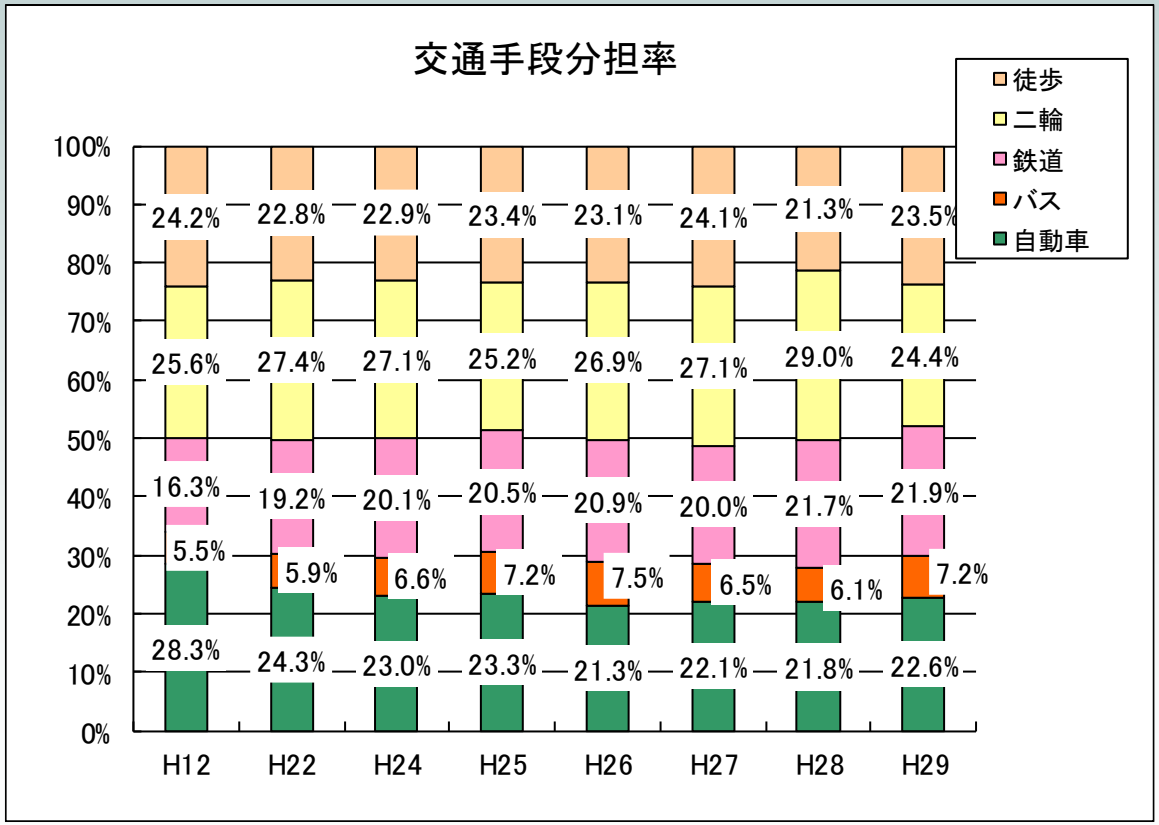
＜「ライフスタイル」の取組＞

・地域と連携したMMを２箇所（左京区，西京区）で実施
・「歩くまち・京都」学習実践校（５小学校）で学校MMを推進
・NPO法人「歩くまち・京都」フォーラムと連携したMMの推進

戦略の数値目標：非自動車分担率

- 非自動車分担率は，目標達成に向けて高水準を維持している。（京都市独自調査結果：平成29年度　約77％）



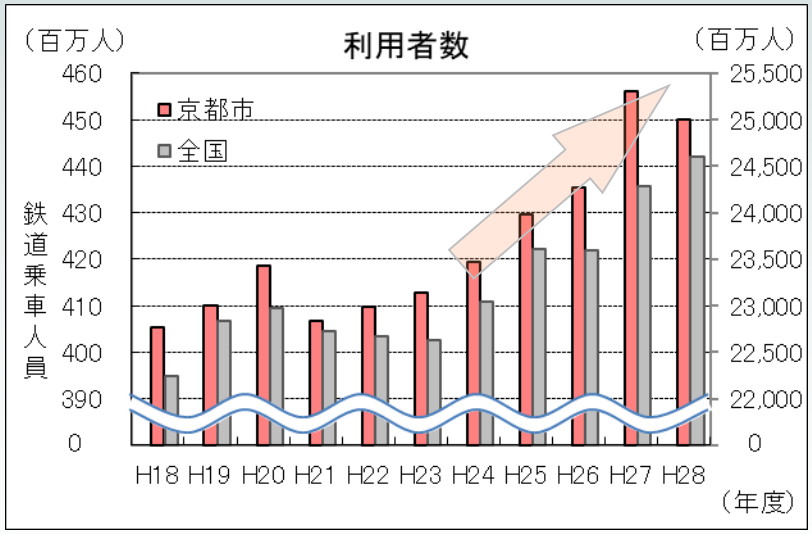


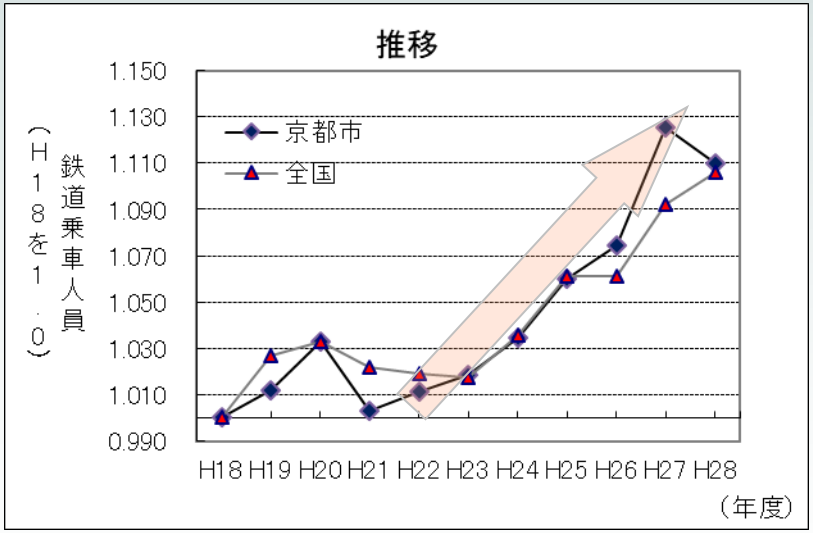
PT調査(京阪神都市圏パーソントリップ調査)は交通計画，防災計画等の基礎資料とすることを目的に，10年毎に実施。H22の対象者数は約70万人（非外出者を含む）

京都市独自調査は，数値目標である京都市の交通手段分担率をモニタリングすることを目的に，京都市民を対象にH24から毎年実施。京都市民以外の京都市の交通はPT調査と同じとしている。対象者数は約1千人（外出者のみ）

効果検証①　鉄道利用者数

- 平成28年度に減少したものの，平成22年度以降，鉄道利用者数は増加傾向にある。
- 平成18年度比で見た増加率においても，全国と比較して高めの水準で推移している。



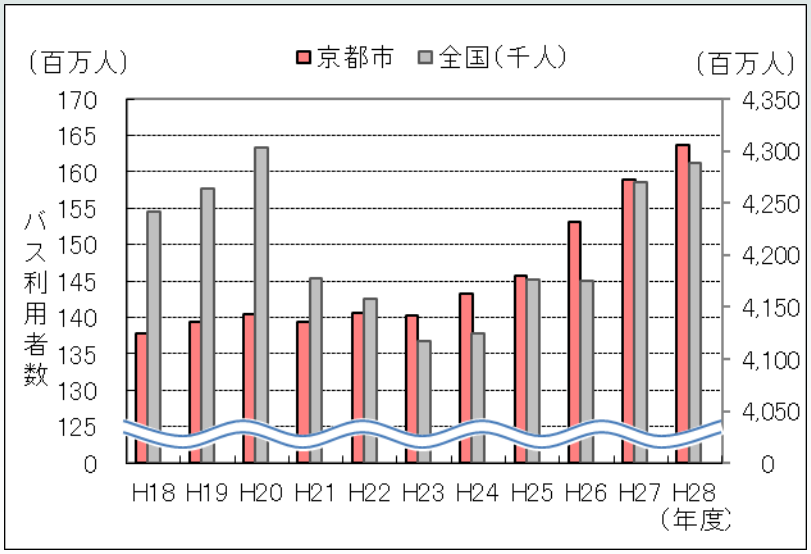


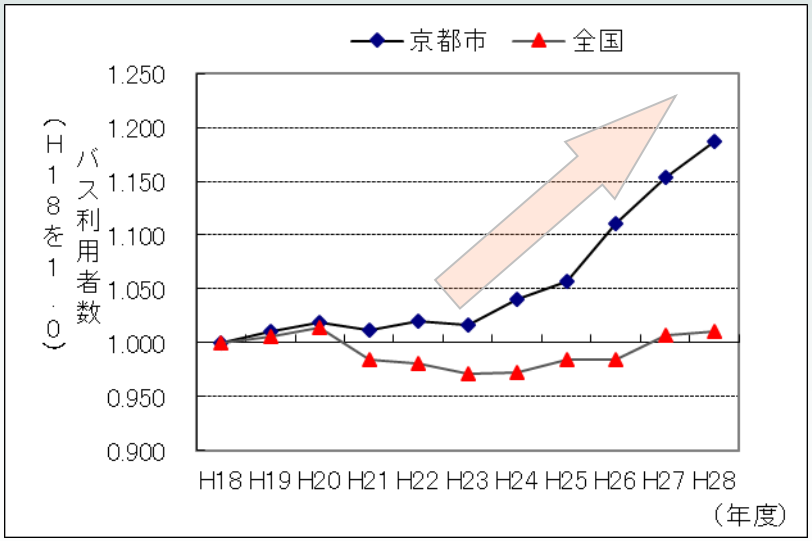
※　平成28年度に，一部事業者の算定方法に変更があった。

京都市調べ
＜全国＞出典：鉄道輸送統計年

効果検証②　バス利用者数

- 平成24年度以降，バス利用者数は増加。
- 平成18年度比で見た場合，全国平均は，ほぼ横ばいだが，京都市は増加基調にある。



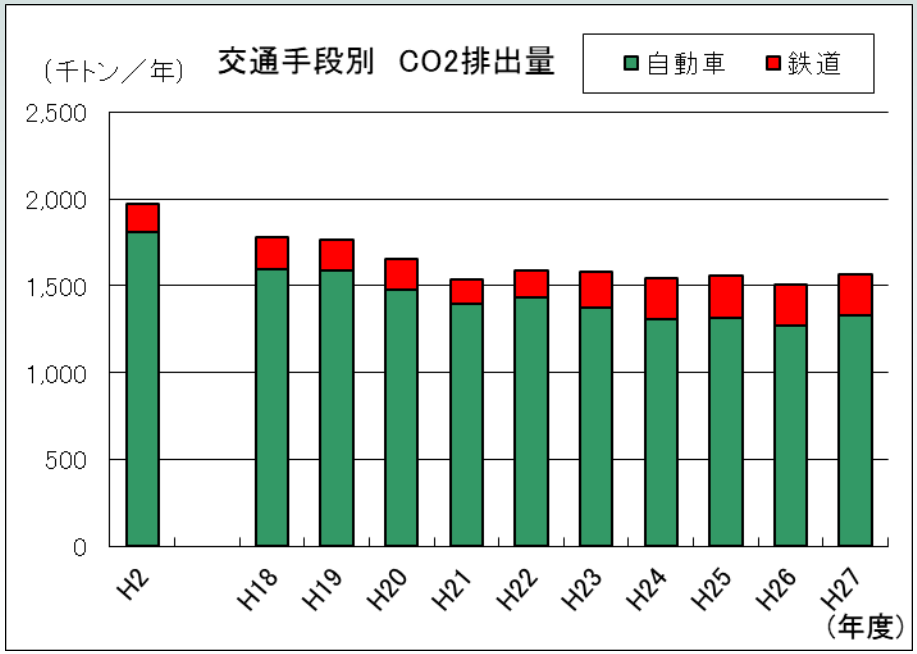


京都市調べ

＜全国＞出典：国土交通省資料

効果検証③　CO2排出量

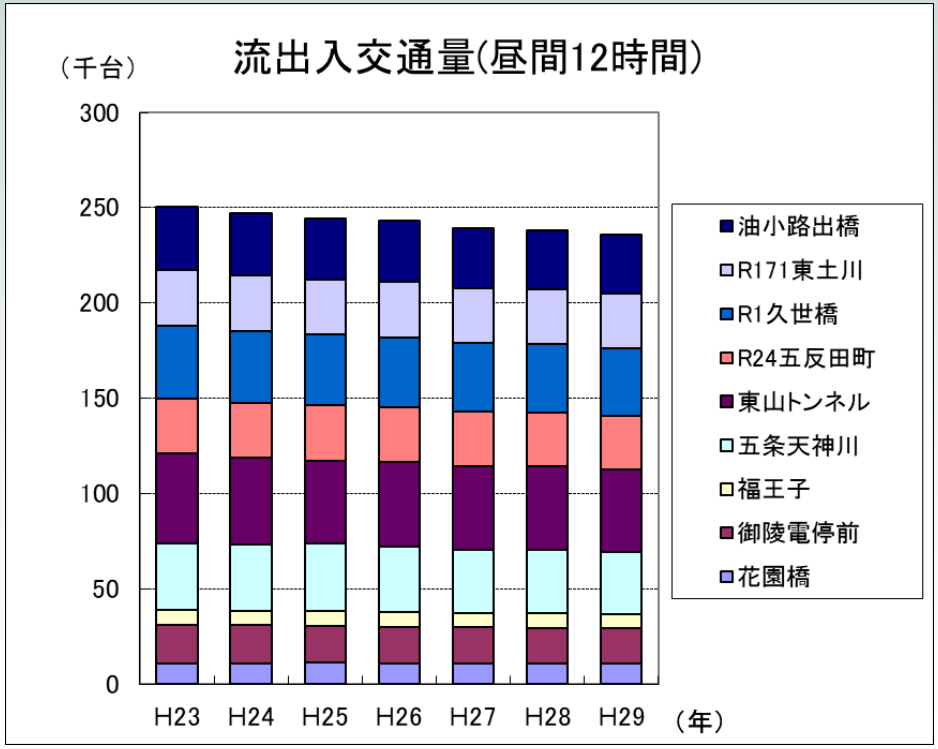
- DO YOU KYOTO? プロジェクトの周知により，環境にやさしい取組が市民の皆様に広がっていることから，運輸部門のCO2排出量は，平成2年度から約2割減少している。



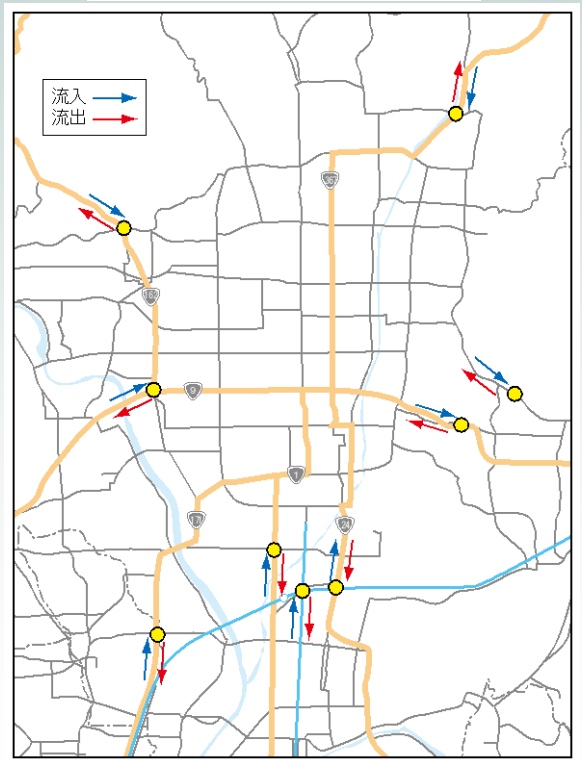
交通手段別CO2排出量　　京都市調べ

効果検証④　流出入交通量

- 市街地への流出入交通量は減少傾向で推移している。



交通量観測箇所



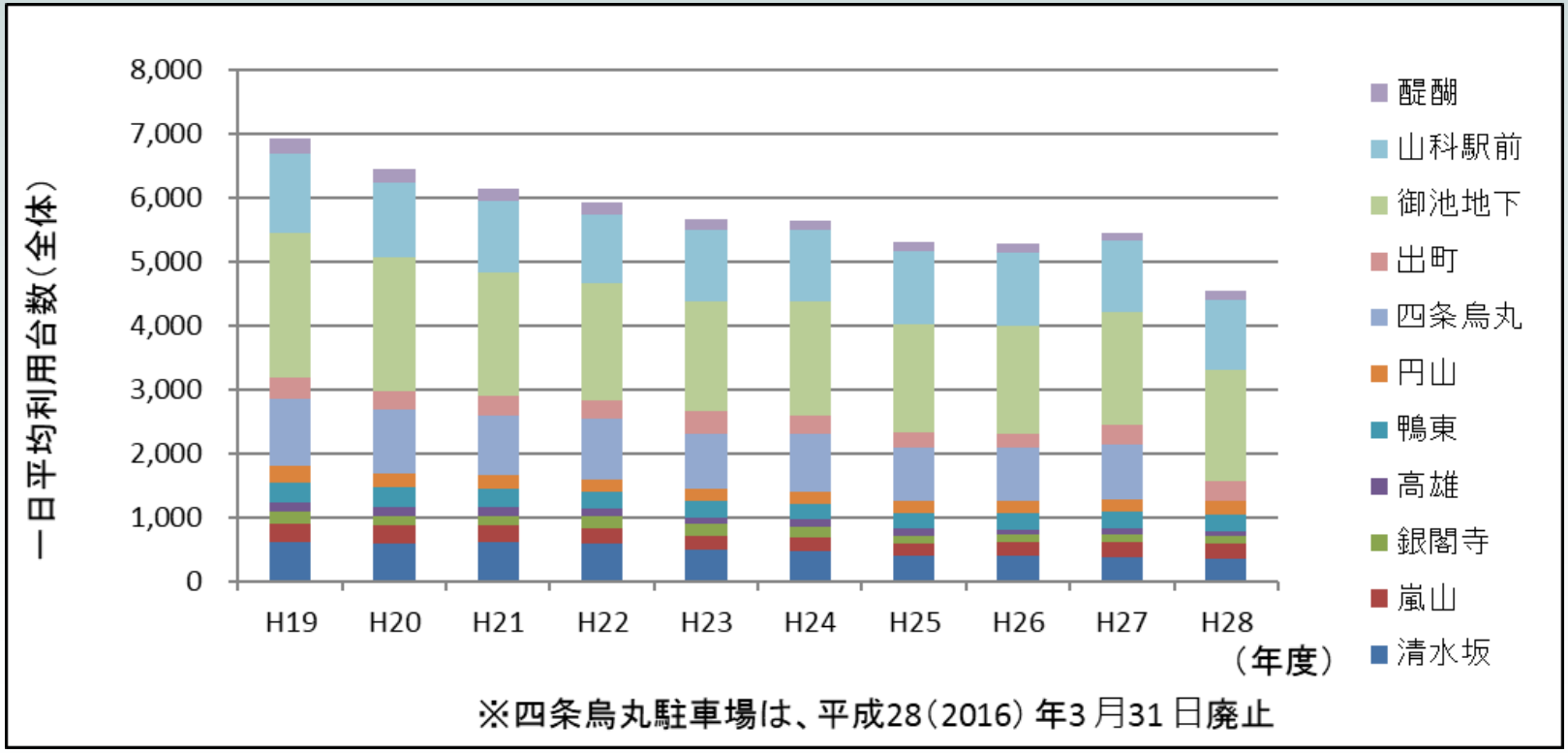
資料:京都府警資料

効果検証⑤　市営駐車場利用状況

- 市営駐車場の平均利用台数は，平成19年度以降，減少傾向にある。

（ただし，平成28年度は，四条烏丸駐車場が廃止された影響が大きいと考えられる。）

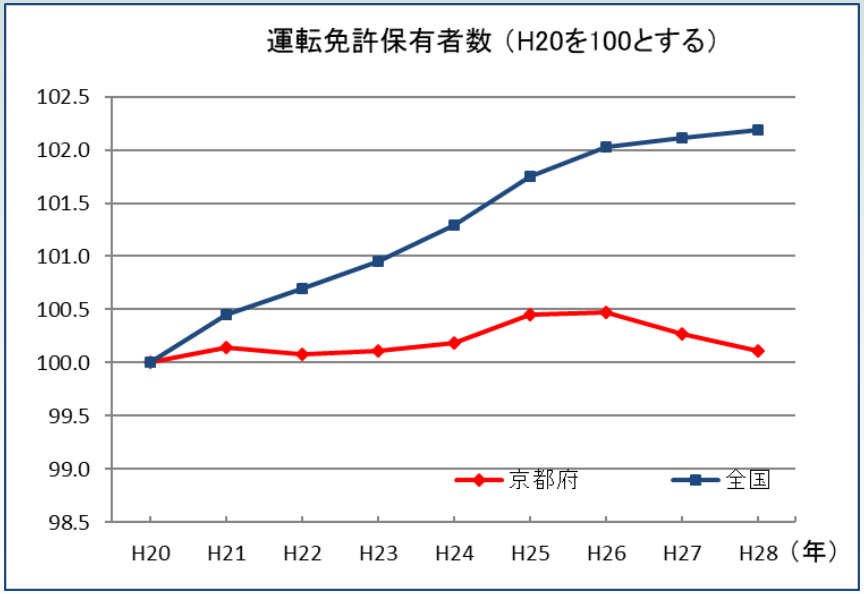
※定期利用台数を含む

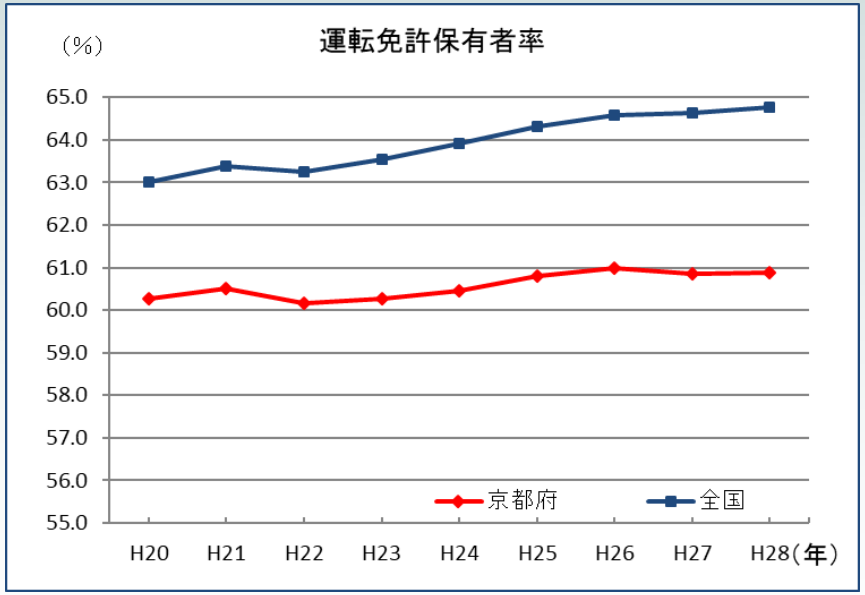


京都市調べ

効果検証⑥　免許保有率

- 「免許保有者数」は，全国的には増加傾向にあるが，京都府では平成27年以降，減少している。
- 「免許保有率」についても，京都府は，全国平均より低い水準で推移している。

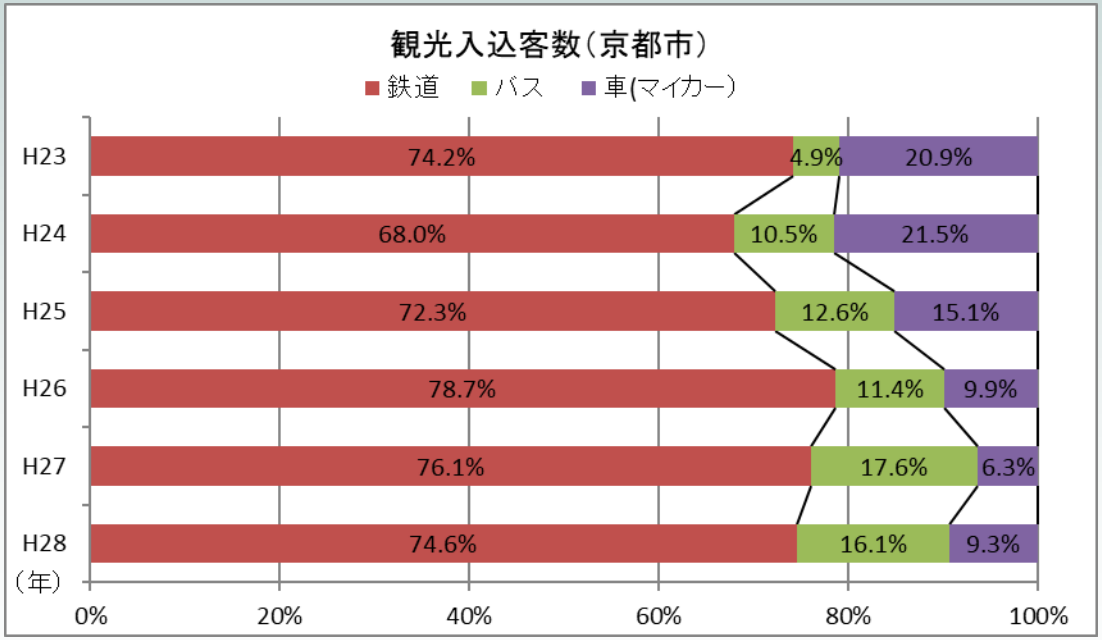




資料：警察庁「運転免許統計」，総務省統計局「人口推計」

効果検証⑦　観光客の交通手段分担

- 車（マイカー）の比率は，平成24年以降，減少傾向にある。
- 一方，公共交通機関（電車・バス）の比率は，増加傾向にあり，平成26年以降，9割を超えている。



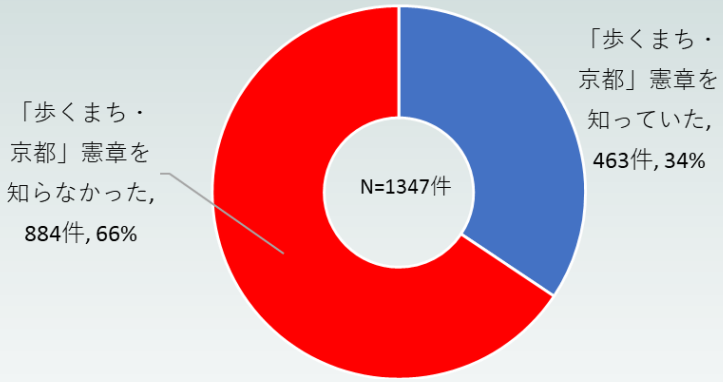
資料:京都観光総合調査

京都市内の主要な鉄道駅，観光駐車場等，全13箇所において，調査時期（年4回），曜日，時間を概ね合わせたうえで無作為に調査対象者を抽出し，郵送回答の方法で調査を実施（回答数：3,843）

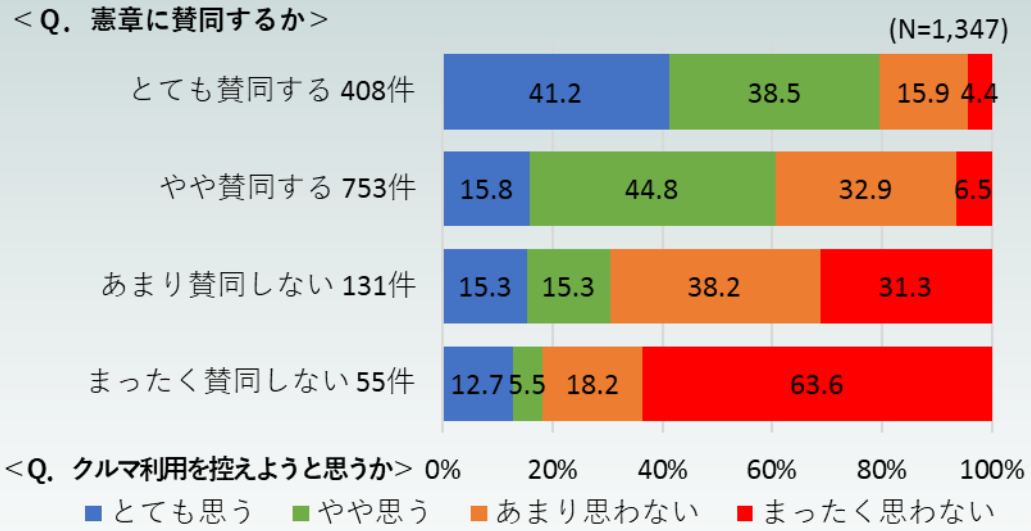
（参考）「歩くまち・京都」憲章の認知度

- 「歩くまち・京都」憲章の認知度は約3割，全体の約8割が憲章に賛同
- 憲章に賛同する者ほどクルマ利用を控えようと思う割合が高い

＜Q．「歩くまち・京都」憲章を知っているか＞



＜憲章への賛同とクルマ利用を控える意向＞



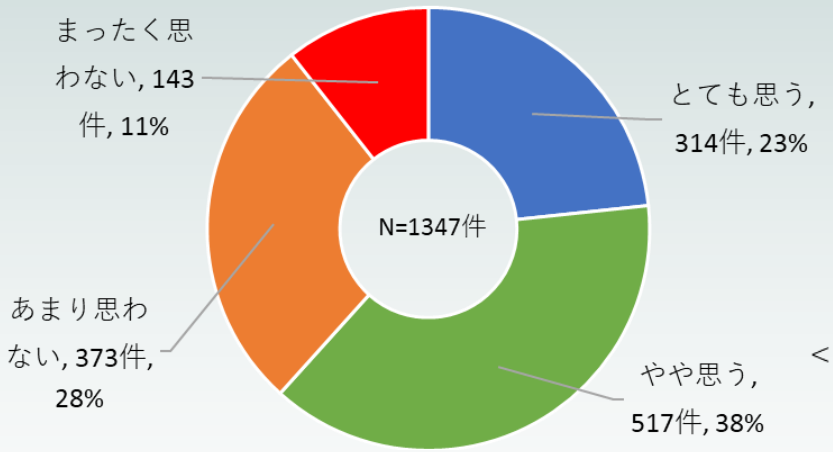
資料:京都市「京都市民を対象とした交通手段分担率調査（平成29年度）」

（参考） クルマ利用を控える意向について

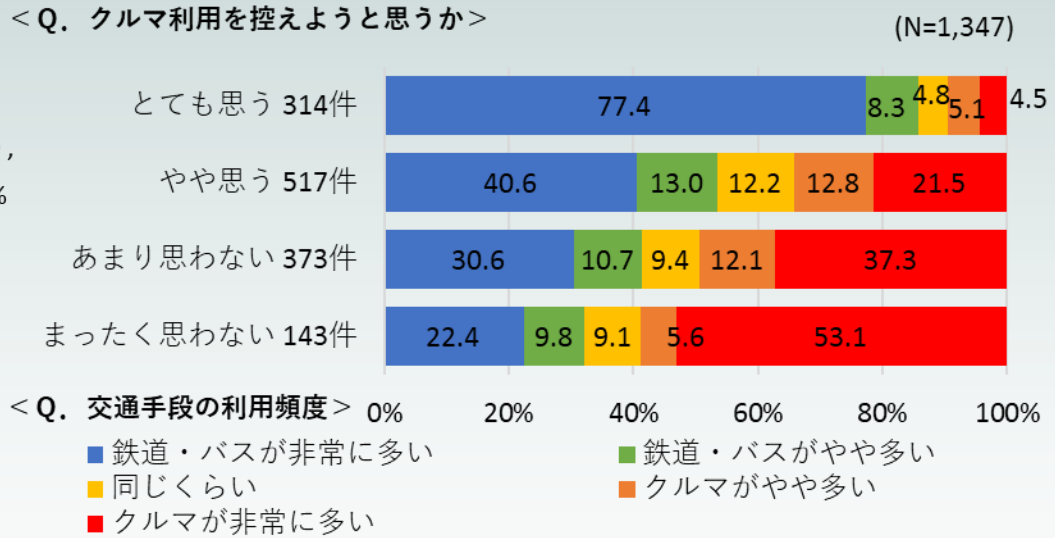
- 全体の約6割はクルマ利用を控える意向がある。
- クルマ利用を控える意向の強い人は，鉄道・バスの利用頻度が高い

＜クルマ利用の意向と交通手段の利用頻度の関係＞

＜Q．クルマ利用を控えようと思うか＞



＜Q．クルマ利用を控えようと思うか＞



資料:京都市「京都市民を対象とした交通手段分担率調査（平成29年度）」

（２）平成30年度以降の展開について

平成30年度の主な「まちづくり」の展開①

まちづくり

京都における自動運転技術の社会実装に向けた研究

□ 自動運転の社会実装に向けた検討会議

自動運転の活用による市政課題の解決や新たなまちの魅力を生み出す可能性について，テーマを絞って議論を進め，平成３１年度に京都における自動運転技術の活用のあり方について，提言を取りまとめる。

□ 自動運転の社会実装を推進するプロジェクト

事業者等と連携し，以下のようなプロジェクトの検討や実証を進める。

- 観光客等の移動需要に柔軟に対応する新たな移動サービス
- 中山間地域やニュータウン等における持続可能な移動サービス

自動運転が実用化された京都のまち（イメージ）

平成30年度の主な「まちづくり」の展開②

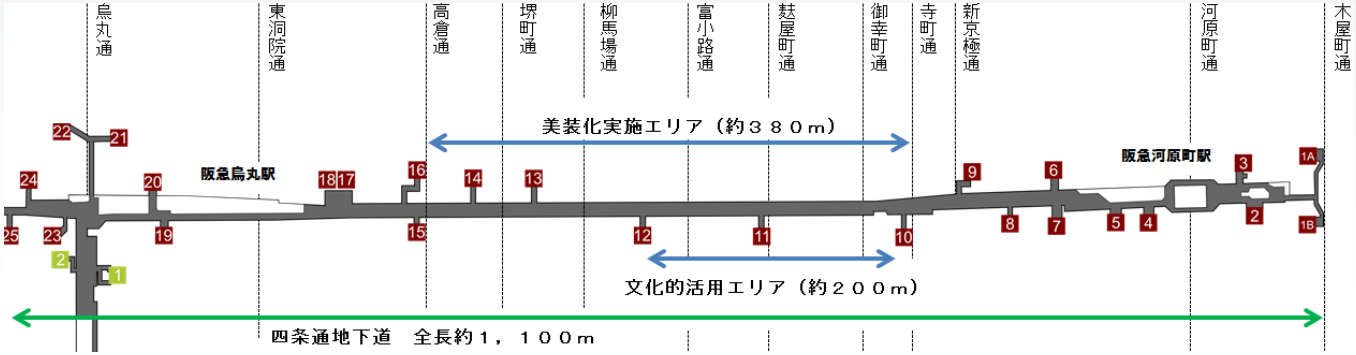
まちづくり

四条通地下道の活性化

- これまで「単に通り抜けるだけの空間」となっていた四条通地下道を，地元，商業施設，事業者等と連携し，「京都のまちにふさわしい文化的な活用」を基本に活性化し，新たな賑わいを創出

- 安心安全，快適で，地上・地下を含めたより一層の魅力の向上と新たな賑わいづくりにつながるよう，地下道中央エリアの美装化及び文化的活用を実施
  - ① 明治150年記念・みんなの写真展 ～四条地下道タイムトンネル～　平成30年7月27日～9月9日
  - ② 四条繁栄会商店街振興組合設立50周年記念事業「未来の京都・四条　児童絵画展」 平成30年9月13日～9月24日
  - ③『天才アートがやってきた！～公共空間にアートの彩り！』　平成30年11月上旬～平成31年1月下旬

- 四条通地下道の更なる活性化に向け，持続的な活性化方策及び，適正な管理のあり方等について，引き続き検討



平成30年度の主な「まちづくり」の展開③

まちづくり

ビッグデータ等を活用した交通流動実態調査

- 鉄道・バス等の公共交通や限りある道路空間を効率的に活用し，交通混雑を緩和するため，交通流動の詳細なデータを把握する。

- あらかじめ蓄積されている，携帯電話（スマートフォン）利用者に係るGPSデータ（平成29年4月～平成30年3月）を活用し，市内全域における交通流動実態（人の流れ）を把握する。
  - 日々の動きから，観光客等と市民等に分類し，それぞれの移動実態を分析する。
  - 上記により得た情報と既存の統計や民間データを比較すること等により，市内交通のボトルネック（混雑箇所等）を明らかにする。

- 併せて，既存交通の更なる有効活用策や，新たな公共交通システムの導入可能性等について，具体的な検討を進めていく。

平成30年度の主な「既存公共交通」の展開

既存公共交通

交通バリアフリーの推進

- 新たに，桃山駅（JR西日本）のバリアフリー化整備や京都駅（JR西日本）の可動式ホーム柵整備に着手

- 併せて，鳥羽街道駅（京阪）のバリアフリー化に向けて，地元代表や利用者代表等を交えてバリアフリー化の概要を検討するため，「連絡会議」を7月27日に開催予定（年度内に計3回開催）。

- 今年度末には，鳥羽街道駅（京阪）が対象区域に含まれる東福寺地区のバリアフリー基本構想を改訂予定

交通局の取組

既存公共交通

2018 3/17(土) 市バス 新ダイヤスタート

車両数 808両 ➔ **818両**

走行キロ 86.5千km ➔ **87.3千km**

Point 1 市バスの混雑対策

朝ラッシュ時間帯の増便

- 西大路通を運行する 205 を増便します。(南行・北行とも)

大学への通学輸送の充実

- 立命館大学(衣笠キャンパス) | 快速Rapid 205 のキャンパス内からの発車便を拡大します。
- 京都産業大学 | 北3 を増便します。
- 佛教大学(紫野キャンパス) | 6 の京都駅発着便を拡大します。
- 京都大学・京大病院 | 京都駅と京都大学・京大病院とを結ぶ「京大快速」を新設します。

主要路線の増便

- 京都駅と東山エリアとを結ぶ「洛バス」急行Exp. 100 を増便します。
- 86 臨(楽洛東山ライン)を**四条河原町**経由に経路延長します。
- 京都駅と金閣寺エリアとを結ぶ急行系統 二条城金閣寺Express を増便します。

Point 2 地域主体のMM※と一体となった 路線・ダイヤの充実

継続したMMの取組により，ご利用が増えている地域を運行する系統の増便

- 北区／西賀茂北部(柊野)地域 特37
- 西京区／松陽学区 69
- 西京区／福西学区 特西4

市バス利用の機運が高まっている地域での新たな試行運行

- 上京区／仁和学区 52

四条烏丸↔二条駅↔仁和学区(七本松通)↔立命館大学

※MM(モビリティ・マネジメント)
「過度に自動車に頼る状態」から「公共交通などの交通手段を適度に使う状態」へと自発的に転換することを促す，地域や関係者による協働の取組

Point 3 より便利にご利用いただけるダイヤ編成

四条界わいから各方面を結ぶ系統の最終便の時刻繰下げ(最大20分)

四条河原町から 10 31 80 四条烏丸から 13 43

深夜バスの運行日拡大 MN 17 MN 204 MN 205 MN 特西3

鉄道との乗継利便性向上 75 南2 の区間増便

2018.3/17 同時実施! 地下鉄ダイヤ改正

8年ぶりとなるダイヤの全面改正を実施します!

烏丸線 朝夕の通勤・通学時間帯に4往復の増便を実施し，混雑を緩和します!

東西線 京阪列車の「京都市役所前駅」止まりのご不便を大幅に改善します!

地下鉄が便利で快適に!

地下鉄キャラクター 都くん

ダイヤ改正により、乗継ぎの時刻等が変わりますので、余裕をもってお出かけください。

京都市交通局
http://www.city.kyoto.lg.jp/kotsu/

平成30年度の主な「ライフスタイル」の展開

ライフスタイル

「歩くまち・京都」憲章の普及・啓発

- 各種印刷物，イベント，啓発グッズ等を活用した「歩くまち・京都」憲章の普及・啓発

「健康長寿のまち・京都」の推進冊子や，自転車マナーの啓発冊子等に，公共交通利用のメリット記事等を掲載し，「歩くまち・京都」の理念を広めていく。

交通行動スタイルの見直しを促す施策

- コミュニケーション・アンケートの実施
- 地域が取り組むモビリティ・マネジメントへの支援
- 市民及び観光客が公共交通でスムーズに移動できる情報の提供　等

- 市内周辺地域等において，住民，交通事業者，行政が一体となったモビリティ・マネジメントを支援し，地域に根ざした公共交通の形成を目指していく。
- 歩くまち京都アプリ「バス・鉄道の達人」について，バス優先から，地下鉄等の鉄道を効果的に活用した経路検索結果を表示するよう改修するとともに，中国語（簡体字及び繁体字）とハングルを加えた4箇国語表記に対応。